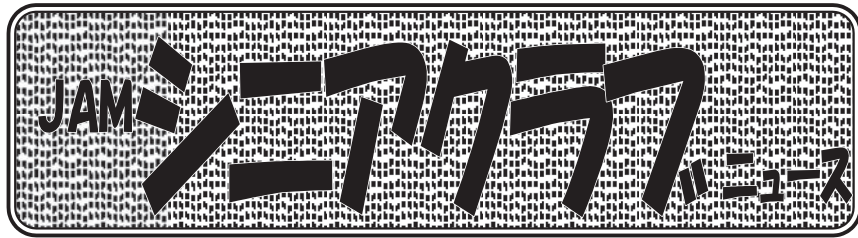


地域組織の確立で
会員間の絆の促進を



第110号

発行日 2016年10月25日

発行者 JAMシニアクラブ

mail jam-senior@jam-union.jp

発行所 東京都港区芝2-20-12 友愛会館11階 JAM本屋内 〒105-0014 電話03-3451-2650 fax03-5440-7389

全国高齢者集 行動する退職者連合の力示す 鳴り物を手に都内をデモ行進

9月28日午後、「2016全国高齢者集会」が東京都文京区シビックホールで、地方代表を含め2000人が参加して開かれた。集会では退職者連合と連合の代表が共に熊本地震災救援カンパや参議院選挙闘争で培われた連携にふれ、「連携を強化して政治の流れを変えよう」と訴え、「行動する退職者連合」を全面に出した基調報告が確認された。参加者は集会終了後、会場から西神田までデモ行進し「生き生きと安心して暮らせる社会をつくろう」と力強く訴えた。

集会へはJAMシニアと東京・千葉・埼玉・アクラから本部役員 神奈川・岐阜・富山の代表27人が参加した。阿部保吉会長は主催

者を代表して、安倍政権が進める医療・介護保険制度改悪の動きに警鐘を鳴らし、年金積立金の株式への投資を即時中止するよう求め、「高齢者が心豊かに暮らせる社会を目指そう」と訴えた。その上で、「組織拡大と連合との連帯強化で総選挙闘争に全力で取り組んでいく」と力強く語った。また連合の神津会長

は参議院選挙にふれ「全国津々浦々で活躍頂いたことに改めて敬意を表します。引き続き、現退連携して政治の流れを変える取り組みを強めたい」と決意を述べた。その後国会開催の中かけつけた野田民進党幹事長、福島社民党副党首、花井中央労協事務局長、吉和労金協会副理事長、阿部田全労済常務執行

役員から挨拶を受けた。

地域報告では福島と熊本から被災地の復興への取り組み、福岡の子供の安全を守る活動、千葉のハイキングコース整備のボランティア活動が紹介された。

内閣府が主催した「平成28年度エイジレスライフ実践事例と社会参加活動事例」紹介で表彰を受けた牧田成子さんと宮田博光さんに阿部会長から表彰状と記念の盾が壇上で手渡された。集会終了後には2000人の参加者が要望を書き込んだプラカードを掲げ、タ

アベノミクスの推進という衣の下に「憲法改悪」と言う鎧が見え見えの安倍政権にかつてない危機感を持って臨んだ先の参議院選挙だったが、残念な結果に終わってしまった。深い失望感と自責の念から抜け出せない。文書や言葉が票に結びつかなかった。情熱と行動力の欠如としか言えず猛省せざるを得ない。

あと一つは、過去の経験から組織が現役の新人を立てた時の選挙は、あらゆる手段を講じ組織全体が火の玉となって燃え勝利に結びつけることが多かったことから、現役に期待しどこかあくまでも応援



主張

援的となつてしまつていた。しかし、定年後15年、今の現役世代の運動力を知らないでいた。

渉の仕方が分からないところが多くあり、労働運動の現場力が低下してしまつている。ここを鍛えないと組織強化にならない」と挨拶があった。戦後労働運動は、賃上げから福利厚生まで生活向上部分を企業に求め、働

がいます。闘争心や労働運動にかける情熱をシニアは削いでしまったのだろうか？ シニアはもっと現役と対話し、出しゃばらない程度に活動家育成に協力していく必要があるのではないだろうか。

今昔物語

参議院選挙結果によせて

富山シニアクラブ事務局長 的山 勇治

いか。

シニアは頑張りすぎた(？)。すべてを整備しすぎた。その確立された生活基盤上に現役

JAMシニアクラブのホームページを開設

インターネットで「JAMシニアクラブ」と入力・検索するとつながります。地方シニア所在地、本部、地方、単組の活動、共済、機関紙などを掲載していますので活用してください。アドレスは次の通り <http://jam-senior.club/>

山 富山シニアクラブ15周年 講演と交流会で今後の発展を誓う

村上 和幸通信員



2016年9月15日、富山県砺波市の「越中庄川荘」にて、JAM富山シニアクラブ15周年記念講演会と交流会が開催された。

会員約50人に加え、JAMシニアクラブ大野弘二事務局長、JAM北陸の辻政光執行委員長、石川シニアクラブの山村信一代表幹事をはじめ、富山シニアクラブを構成している組織の単組代表者など

多くの来賓を招いての開催となった。

主催者を代表して鈴木代表幹事が挨拶し、来賓から挨拶を受けた。

記念講演会では、前参議院議員の津田弥太郎氏を招いて「議員生活12年を振り返って」をテーマに、議員生活の経験をもとに、時事問題をはじめ医療・介護・労働政策など、幅広い話がされた。

その中で、安倍政権が延期した消費税の増税については社会保障の充実・安定化に向けて必要な財源であり、

本来は待ったなしの状況であることや、政治家は人気を取るための政治をおこなうのではなく、日本が悪くならないために知恵を出さなければならぬ等、私たちが有権者に向けた核心をついた話をきき、あっと言う間の90分間であった。

講演会終了後の交流会では、会員相互の近況報告や昔ばなしでもりあがることも、現役の単組代表者とも様々な話題で懇親を深め、出身単組や加盟組織の今後の発展を誓った。



JAM大阪シニアクラブは、9月10日(土)

大阪 第16回定期総会を開催 8地協のOB組織結成を目指す

田井中 藤男通信員

午後3時から、JAM西日本会館6階ホールで会員、役員、来賓、現役書記局9人を含め54人の参加で第16回年次定期総会を開催した。

総会は、原正巳氏(元書記局)を議長に選任し、森本實代表幹事の主催者挨拶の後、来賓のJAMシニアクラブ大山会長、大阪退職者連合有元会長、現役組織より中井書記長、組織内議員団代表の大毛堺市会議員、民進党大阪府連代表の平野博文衆議院議員、近畿労働金庫から挨拶を受け、議長から大会に寄せられた祝辞、メッセージが披露された。

総会では、今後1年間の課題として、①会員拡大とシニア共済の加入促進について、会員個人の努力はもとより、現役組織の協力を得て、地協単位でのシニアクラブ(OB組織)の結成が重点課題として確認された。

既に結成されている、堺阪南、市内北地協に続いて、11月24日に市内南地協で結成が予定されており、かわち地協、北大阪地協でも準備が進んでいる。今年中に8地協のすべてでの結成をめざす。②平和を守る運動については、戦後生まれの世代が人口の8割を占め、戦争体験者の大半は70代以上となり、未来に再び過ちをおこさないため、世代を超えた平和運動を進めること。

③社会保障制度の改善阻止にむけて、退職者連合、大退連とともに政策制度、地方自治体への要請行動を強めていくことを確認した。

また、役員の一部交代として、大西剛幹事(ダイキン堺)から、清水謙一幹事(ダイキン本部)への交代を確認した。

都 第16回定期総会を開催 方針・政策課題全会一致で確認

伊藤 忠男通信員

昨年引き続き、昼間の時間を有効に使うという思惑で、9月9日(金)10時30分からホテルセントノーム京都で今年度の総会(第16回)を開催した。

総会には、役員16人、代議員34人、JAMシニアクラブ大山勝也会長をはじめとする来賓

3人にも出席いただき、①社会保障費の抑制と負担増を画策し、マクロ経済スライドによる年金の減額、そのうえ大事な年金積立金を株式に投資するなど、高齢者にとって許すことのできない安倍政権の独走を許さないようJAMシニアクラブ、退



職者連合とともに、現役労働団体との連携を得て、政策課題の実現に向け取り組みを起こしていく。②今年

度の会員数が1747人と昨年より60人減少した。この減少に歯止めをかけるべく、現役労組の協力を得て、会員拡大の取り組みを継続し、JAMシニアクラブ本部、京都退職者連合や傘下の退職者組織とも交流し、いろいろな知恵をいただきながら会員拡大の課題に取り組む。③囲碁・将棋・麻雀・グラウンドゴルフを中心に会員の交流行事を開催する。④年5回の幹事会を開催し、

各課題の具体的な展開を図る。⑤JAMシニアクラブ、退職者連合の活動や交流にも積極的に参加すること、などを中心とする活動方針と予算を全会一致で確認し、今年度の活動を開始した。

定期総会終了後には出席者相互の交流と意見交換を目的に懇親会を開催し、本部の大山会長にも参加をいただき有意義な時間を過ごした。午後2時にお開きとなった。

総会では、今後1年間の課題として、①会員拡大とシニア共済の加入促進について、会員個人の努力はもとより、現役組織の協力を得て、地協単位でのシニアクラブ(OB組織)の結成が重点課題とし

現役の地協担当オルグも参加して、和やかなうちに交流会は進められ、総会は成功裏に終了した。